



東洋遺稿

曾  
651





故小野梓先生肖像

故小野梓先生遺墨

病毛は帰し後熟思ふよ畢竟斯く藩聽の東傳を受くるに必竟帯  
 刀の身不て士かの列不存れに然るなり（帯刀を棄てて身不て士か）今より士林と稱し平人と為し  
 身と自由ならずと今の上策なりと或る日其由と萱芸家兄等不話し  
 平人の頭と出すことと為たり然るに伊垣公之を聞き屈けるまき考め據存  
 く他家へ養子不往躰不て平人と為りたりまこの平人不考る事ヲ執きて人  
 と大抵その短氣なるを戒め今時ハ平人でせよ士林不為りたり思ひ脚ざし  
 の一本も差し養思ふ世の中なる不態 帯刀と抜き捨て平人と考るとハ  
 滅志得道しなむ由とささやきたれども余に於て見る所ありしにわし我の  
 心不まき世に笑わしと堅く乞ひ遊ぶ平人と云ふべき

故小野梓先生ノ遺稿中自家ノ經歷ヲ手記セル一冊子アリ  
 右ニ掲ゲシハ其一節ニシテ手跡ノ儘ヲ寫眞石版ニ附セシ  
 モノナリ

（八）首領筆作明證 奉 河州日東洋手記

告改進黨人

諸君我党、人余ハ一日、長タルト謂フヲ以テ今  
 諸君、推ス所ト為リ現ニ我党、首領タルヲ諾セリ  
 願フニ一党、領袖ト為ル河野前島、二君、始メコ  
 ノ濟々タル多士ニ先導タルハ人事ノ最モ容易ナリ  
 ルモ、ニシテ余カ微力甚タ恐ル所アリ然レトモ  
 政党、事タルヤ素ト天下ノ公ニシテ一人、私ニ非  
 ラ所謂公明<sup>又所謂公明</sup>定事業<sup>定事業</sup>  
 為メニ盡ス、心ヲ以テ之ヲ先導シ夫ノ主義ヲ操持  
 シテ之ヲ勤カスコトナリシハ其難事ニ當ル自<sup>余甚</sup>日ヲ

東洋書局

為難 スハカラナル者ヲ知ル 改進スルヲ以テ自カラ任シ上ニ聖天子ノ恩遇ニ報  
比下モ社會ノ冀望ニ對シテ欲スルモノナレハコ  
ノ改進党ノ首領ト為リ改進ノ主義ヲ操持セラル  
諸君ト共ニ政治上ノ冀望ヲ與ニスルハ余ノ最モ悅  
フ所ナリ否ナ改進ノ主義ヲ操持セラル諸君ト共ニ  
治上ノ進路ヲ與ニスルノ諸君ト共ニ其冀望ヲ與ニ  
スルニ非ラサルヨリハ余ニ聖天子ノ恩遇ニ對シテ下  
社會ノ冀望ニ對スル所ハ余ノ在廷ノ日既ニ操持ス  
我ニ進党ノ冀望スル所ハ余ノ在廷ノ日既ニ操持ス

ル所ニ主義ヲシテ微頭微尾余ノ同意スル所ナリ  
否十余人未ニ主義ヲ以テ我ニ身ヲ始終トシテ欲  
スルモノナリ是ヲ以テ天下若シ一二種族ノ我帝國ヲ  
專ラニシ夫ノ上ニ一人ト下モ萬民ヲ養ニスルモノ  
アテハ余ハ之ヲ目シテ公敵ト為サントスルナリ願  
ミテ本朝ノ歴史ヲ見レハ中古王室ノ衰微シ給フテ  
以來我帝國ノ始終一二種族ノ專有ニ歸シ千餘年ノ  
間本朝ノ歴史ハ一二種族專横ノ事蹟ヲ以テ充滿シ  
殆ント餘白ナキカ如シ看ヨリ藤平ニ氏政柄ヲ私門ニ  
專ラニセシ以來源氏北條氏關東一二種族ヲ以

東洋書局

テ天下ヲ專ラニシ定利織田豊臣ノ如キ皆十又一二  
 種族ヲ驅テ我帝國ノ政治ヲ專有シ或ハ美濃人ニ  
 依リ或ハ尾張人ヲ賴ニ各々其一方ノ人材ヲ專有  
 シ未タ曾テ天下ヲ齊一スル事アラ降テ徳川氏  
 ノ治ニ及ンテ猶ホ天下ノ公政事ヲ以テ參河人ノ私  
 便ニ供スルノ實アルヲ免レス其天子ヲ蔑ニシ人民  
 ヲ輕ニスルノ意燎然トシテ明カナリニアラヌヤ是  
 レ維新中興ノ革命ヲ致セシ一因ニシテ當時西南地  
 方ノ強藩ハ最モ斯偏曲ノ政治ヲ憤リ最モ其際ニ盡  
 セカ  
 力  
 ヲ  
 示  
 ル  
 モ  
 ノ  
 ナ  
 リ  
 サ  
 レ  
 ハ  
 コ  
 ソ  
 我  
 帝  
 聖  
 ナ  
 ル  
 今  
 上  
 陛  
 下  
 ハ

即位ノ始ニ當リ首トシテ萬機公論ニ決スルノ誓約  
 ヲ立テサセ給ヒ爾來數ク詔命ヲ降シテ其誓約ノ宸  
 慮ヲ堅クシ給ヒシソ今余ヲ以テ之ヲ觀レハ戊辰ノ  
 戰爭ヲ意外ノ早ニ鎮靜シ踵テ廢藩置縣ノ大業ヲ容  
 易ニ成就シ得タル等ハ我今上赫々ノ威徳ニ輝カレ  
 為メニ茲ニ至リタルモ、ナルト虽モ抑モ又維新ノ  
 政府ノ中興ノ初年ニ當テ天下齊一ノ主義ヲ操持シ  
 夫ノ一地方ニ偏曲スルノ政治ヲ攘ハント欲シタル  
 公心ノカニ由ルモ、多クカシキ實ニ維新ノ政府ハ一二  
 種族ノ政權ヲ專有スルヲ攘却シ去ラシカ為メ中興

シタルモノナレハ其初年ノ素志ヲ貫キ以テ上ニ王  
室ノ尊榮ヲ謀リ下ニ萬民ノ幸福ヲ修ムルコソ誠ニ  
其良徳ナレ否十四海一途庶民ヲシテ倦マサラシム  
一キハ明治政府ノ宜シク勉ム一キモ九十九カニ惟フ  
ニ内閣ノ諸氏ハ能ク其良徳ヲ具ヘタルカ能ク其義  
務ヲ盡シタルカ天下具眼ノ人ハ必ラス其果シテ如  
何ナルヤヲ知ラン唯余ハ一二種族ノ日水帝國ヲ專  
有スルヲ攘却センカ為メ中興ノ偉業ヲ翼賛シ奉リ  
タル者一人ナレハ今後ト雖モ依然其主義ヲ操持  
シ敢テ變スルコトナカルヘシ否十益ニ其志望ヲ堅

東洋新報

クシ維新中興ノ偉業ヲ大成シ帝國萬世ノ基礎ヲ建  
テ以テ王室ノ尊榮ヲ無窮ニ保チ人民ノ幸福ヲ遠永  
ニ全クスルヲ冀望スルカニ世上間々自カラ稱シテ尊  
王ノ党派ナリト唱ヘ其良徳ヲ修飾スルモノアリト  
雖モ多クハ是レ一二種族ヲ以テ王室ノ藩屏ニ當テ  
或ハ兵カラ以テ王室ヲ守ラント欲スルニ過キス甚  
シキハ君主ヲ露出シテ直ニ行政ノ衝ニ當ラセ給ハ  
ンコトヲ冀ヒ以テ王室ヲ推シテ危險ノ地ニ立チテ  
セ給ハント欲スルモノカニ果シテ是レ王室ノ尊  
榮ヲ謀ルニ足ルカ否ナ斯數事ヲ以テ王室ノ尊榮ヲ

東洋新報

謀ルニ足ラサルナリ設ク若シ之ヲ謀ルニ足ルト也  
 實榮ヲ冀フモノナリ豈ニ斯ノ浮華暫住ノ尊榮アル  
 ヲ満足シテ王室ノ為メニ自カラ足レリトセンヤ否  
 ナ余一時暫且ノ尊榮アルヲ以テ我冀望ヲ満足カ  
 ハナリ世間又自カラ稱シテ人民ノ幸福ヲ謀ルナリ  
 ト唱フ者アリ然レトモ今其為不所ヲ見ルニ往々ニ  
 シテ姑息為媮ノ措置ニ流レ其能ク大躰ノ務ヲ渴テ  
 永逐ノ謀罔ヲ畫スルモノ實ニ寡シ是ヲ以テ士族ノ  
 窮スルヲ見テハ其窮スル所以ノ本源ヲ極メスシテ

直ニ之ニ授産センコトヲ冀ヒ金融ノ壅塞スルヲ見  
 テハ其壅塞スル所以ノ原因ヲ問ハスシテ直ニ罪ヲ流  
 通紙幣ノ寡ナタルニ歸シ又其條約ノ改正ヲ欲スル  
 ヤ苟媮不斷ノ措置ヲ為スヨ好ニ敢テ禍害ヲ後世ニ  
 遺スヲ顧ミス又民間事業ノ興起スルヲ欲スルヤ夫  
 ノ無用ノ干涉ヲ為スヲ冀ヒ徒ラニ國帑ヲ貸付ニ疲  
 ラスヲ顧ミテラントス是レ果シテ人民ノ幸福ヲ謀  
 ルニ足ル乎否ト斯數事ヲ以テ人民ノ幸福ヲ謀ルニ  
 足ラサルナリ設ク若シ之ヲ謀ルニ足ルト也ト云フ  
 モ是レ一時暫住ノ浮華ノニ余ハ人民永遠ノ幸福ヲ

冀フモノナリ豈ニ斯ノ浮華暫住ノ幸福アルヲ満足  
シ人民ノ為メニ自カラ足レリトセシヤ否<sup>一</sup>  
時暫且ノ幸福アルヲ以テ自カラ我冀望ヲ満足<sup>在能</sup>  
ルナリ之ヲ要スルニ余ハ王室ノ為メ人民ノ為メ無  
窮永遠ノ尊榮幸福ヲ保全スルヲ冀フ是ヲ以テ夫ノ  
一二種族ノ帝國ヲ專有シ上ニ王室ヲ<sup>成ニ</sup>下ニ万民  
ヲ無<sup>ニ</sup>スルモノアルカ若クハ目前ノ苟安ヲ偷シ遠  
永ノ禍害ヲ顧ミサルモノアテハ余ハ断然之ヲ目シ  
テ我政敵ト為サントスルナリ否ト世間若シ斯類ノ  
事アルニ遇ハレ是レ唯余一人ノ敵ニ非ラスレテ我

党共同ノ政敵ナリ我党共同ノ政敵ニ非ラスシテ實  
ニ天下萬衆ノ公敵ナリ余ハ<sup>早</sup>諸君ノ輔翼ト公衆ノ信  
用トヲ得テ此公敵ヲ退治スルノ冀望ヲ抱カサルコ  
ト得<sup>ル</sup>ナリ  
王室ノ無窮ニ保持スルニ尊榮ト人民ノ永遠ニ享有  
スルニ幸福ハ余ノ諸君ト共ニ冀望スル所ナリ然レ  
トモ尊榮ヲ保持シ給フニ道アリ幸福ヲ享有スルニ  
則アリ苟モ其道ト其則トヲ得サレハ徒ラニ之ヲ冀  
ヒ空ク之ヲ望ムモ終ニ之ヲ得ヘカラサルナリ諸君  
我党ハ政治ヲ改良前進シテ夫ノ無窮ノ尊榮ヲ保チ





思フサハ満足シ得サリシハ余カ满腔ノ遺憾ナリ然  
 レトモ我帝國ノ風潮漸ク改進ノ治理ヲ冀フニ至リ  
 刺サハ諸君ノ輔翼ヲ辱フスルニ至リタレハ早晚ノ  
 中社會ノ信用ヲ得テ夫ノ遺憾ヲ慰ムルノ遺憾アル  
 ヲ信スルナリ政治ノ改良前進ハ我党一致ノ冀望ニ  
 シテ余カ平生ノ所志ナリ然レトモ之ヲ改良前進ス  
 ルニ<sup>必ス</sup>順正ノ手段ト着實ノ方便<sup>ニ由ルヲ要ス</sup>ヲ求ムルヲ以テ最  
 大緊要トスルリカシ余カ考フル所ニ依テ之ヲ云ハ  
 ハ天下ノ道理ヲ實行スルニ二ツノ道途アルカ如シ  
 所謂ルニツノ道途トハ一ハ直行シテ道理ノ極所ニ

ニ至ルコトヲ冀フヲ<sup>謂フ</sup>ヒ一ハ道理ノ極所ヲ查見シ  
 夫ノ手段ト方便ヲ求メ進歩シテ之ニ達スルヲ<sup>謂フ</sup>  
 夫ノ<sup>願</sup>政治ヲ改良シ之ヲ前進スルモ亦タ必ラスコ  
 ノ二途ニ出テサルヲ得ス然レトモ道理ノ極所ヲ查  
 見スルニ及ンテ直行之ニ至ランコトヲ冀フハ是レ  
 所謂ル爾安若<sup>ハ</sup>靈驗ノ餘流ニシテ其極ヤ社會ノ秩序  
 ヲ紊乱シ政治ノ改進ヲ妨碍スルニ終ランノニ是レ  
 豈ニ我党ノ冀フ所ナランヤ是ヲ以テ我党ハ夫ノ政  
 治ヲ改良前進スルニ當テ順正ノ手段ト着實ノ方便  
 トヲ求メ進歩シテ其目的ヲ達スルヲ<sup>謂フ</sup>冀フナリ唯夫

我党ハ手改ト方便トヲホメ我帝國ノ政治ヲ改良前  
 進スルコトヲ冀フ故ニ夫ノ盧騷ノ餘流ヲ汲ニ奢古  
 敏者流ノ二舞ヲ演シ躁急激昂以テ過激ノ慶華ヲ為  
 シニコトヲ冀フモノアリハ我党ハ之ヲ卻ケテ其ニ  
 其進路ヲ與ニスルヲ欲セサルナリ爾ク急激ノ慶華  
 ヲ排却スト雖モ我党ハ夫ノ守舊ノ内實ヲ掩フニ漸  
 進ノ外貌ヲ以テスル党派ト區別スルヲ簡要ナリト  
 ス否<sup>唯</sup>我党ハ政治ノ改進ヲ尚フノ<sup>改</sup>党派ナリ順正ノ  
 手段ト着實ノ方便トヲホメ做シ得来ル的ノ完全ニ  
 政治ヲ改良前進セ<sup>ル</sup>ル<sup>意</sup>ニ<sup>シ</sup>テ<sup>ル</sup>党派ナリ豈ニ為ス

ヘキノ機會ニ遇フテ為サス各ヲ漸進ニ假テ故ナラ  
 ニ遅々回々シ以テ私利ヲ暗射スルカ如キ党派ノ種  
 類ナラン<sup>余</sup>觀ミテ泰西ノ歴史ヲ<sup>考</sup>ルニ<sup>ハ</sup>英國ハ順正  
 ノ手段ト着實ノ方便ヲ以テ其政治ヲ改良前進シタ  
 ルモノト謂ッヘリ之ニ及シテ佛國ハ急躁過激ノ慶  
 華ヲ施シ以テ社會ノ秩序ヲ紊乱シ政治ノ進行ヲ妨  
 碍シタルモノト謂ッヘシ<sup>モ</sup>今ノ時ニ當テ宇内萬  
 國ノ多キ何ノ王室カ最モ能ク尊榮ニシテ何ノ國民  
 カ最モ能ク幸福ヲ全フスル<sup>ハ</sup>余ハ斯ニ點ニ在テハ  
 竊ニ英國ヲ欣慕セサルヲ得ス否ナ我邦<sup>モ</sup>夫ノ順正

ノ手段ト着實ノ方便ヲ利用シテ  
斯政治ヲ改良前進  
シ以テ 英國ト並ヒ馳セ或ハ之ニ超過センコトヲ冀

フナリ  
以テ 余カ志望ノ大跡ヲ吐露スルニ過キス惟ヒ夫

ノ政治ヲ改良シ之ヲ前進スル  
冀望ニ至ラハ晷々  
約章ノ中ニ擧グト雖モ其仔細ノ

ト非常ノ艱難ヲ嘗メ諸君ト共ニ其志望ノ所在ヲ表  
明スルヲ得ス今ヤ余ハ一日ノ長タルト謂フヲ以テ

推擧セラレテコノ君ヲ先導スルノ大任ニ當レリ故  
ノ署ニ余カ志望ノ一  
吐露シ之ヲ我党ノ諸君ニ

告ク諸君ハ必ス余ト其感ヲ同フシ帝國ノ興望ヲシ  
シテ咸ク我党ノ志望ニ同セシメンコトヲ冀フナラ

心ム